



教育長メッセージ

さいたま市教育委員会 教育長 竹居秀子

— すべての子どもの多様で豊かな可能性を開花させるために —

Technology & Heart: 技術と人間性が調和する未来志向の教育

春の訪れが近づき、さいたま市の中でも歴史と文化が色濃く息づく岩槻の街では、ひな人形の飾り付けが始まり、職人の手仕事を楽しむ来訪者でにぎわう季節となりました。人形のまちとして長い伝統を受け継ぐ岩槻の風景は、地域の温かな営みと文化の豊かさを感じさせ、子どもたちが自分のまちに誇りを持つ大切なきっかけにもなっています。

こうした地域の魅力に支えられながら、令和7年度(この一年)を振り返ると、関西万博では最新の科学技術やAIの可能性が世界に発信され、人とテクノロジーが共に未来を創る姿が示されました。また、日本初開催となったデフリンピックでは、多様性と共生の価値が改めて注目され、国籍や障害を越えた心のつながりが多くの感動を呼びました。一方で、生成AIの急速な普及に伴う課題や、記録的猛暑による熱中症対策など、学校現場には新たな対応が求められています。

私たちを取り巻く社会は、AI やデジタル技術が生活のあらゆる場面に溶け込み、便利さと新しい価値を生み出す「次世代の暮らし」が本格的に広がりつつあります。こうした時代を生きる子どもたちには、生涯にわたり主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生をしなやかに切り拓く力が求められています。そのためには、子ども自身が問いを立て、探究し、対話を通じて学びを深める教育が不可欠です。学びの場は教室にとどまらず、地域や社会、国際社会へと広がり、実践的な学びを通して現実の課題に向き合う力を育みます。また、多様性を尊重し、共生社会を築こうとする姿勢も、これからの教育に欠かせない視点です。

本市では、「一人ひとりの幸せな人生と豊かな社会の創造を追求する教育」を掲げ、学校教育と生涯学習の垣根を越えた学びの環境づくりを進めてきました。ICT 活用や多様な学習支援の充実により、子どもが自分らしく学べる環境が整い、学びの姿は大きく変わりつつあります。その成果として、全国学力・学習状況調査では認知能力・非認知能力ともに全国平均を上回り、英語教育では全国トップの成果を継続しています。一方で、いじめや不登校の増加は全国的な課題であり、本市も例外ではありません。引き続き、子どもたちの安全・安心を最優先に取り組んでまいります。

令和8年は、さいたま市誕生25周年の節目を迎えるとともに、「変革の扉を開く飛躍の年」と位置付けています。新設校である「大和田小学校」や「いづみ野学園小学部・中学部」の開校は、その象徴的な一歩です。これまでの延長線にとどまらず、未来を見据えた新たな価値を創造する「さいたま市教育」の新しい章が始まります。

本市の教育が今後進むべき方向として、次の3点を重点に取り組めます。

I 教育DXの本格展開

「さいたま市教育DXグランドデザイン」のもと、児童生徒用端末の更新や次世代型校務支援システムの導入を進め、「学び方」「教え方」「働き方」の改革を加速します。デジタルは効率化だけでなく、リアルな体験と結びつくことで子どもの可能性を広げます。技術と人間性が調和する教育を推進し、教職員と子どもの Well-being を高めてまいります。

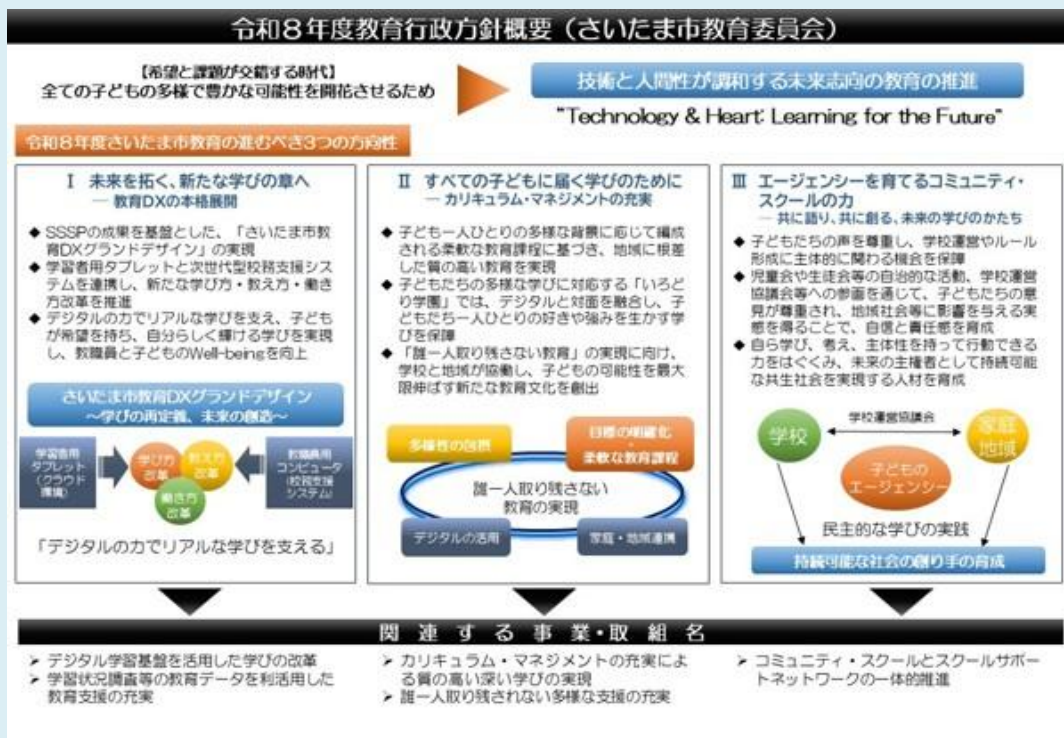
II すべての子どもに届く学び — カリキュラム・マネジメントの充実

学校が地域や家庭と連携し、目標に基づいて柔軟に教育課程を編成することが重要です。「カリマネデザインマップ」を活用し、地域とともに学びを創る文化を育みます。また、不登校等に対応した「いそどり学園」は、多様な学びを保障する先進的な拠点として、個別最適な支援を市全体に広げる役割を担います。

III エージェントを育てるコミュニティ・スクール

子どもたちが学校運営協議会に参画し、学校や地域の未来について意見を交わす機会を保障することが大切です。その経験を通じて、子どもたちは自ら学び、考え、行動する力＝「エージェント」を育てていきます。学校と地域が連携し、子どもの声を生かす仕組みづくりが求められています。地域とともに課題に取り組む体制こそ、コミュニティ・スクールの真の価値です。こうした実践が、子どもたちを「持続可能な社会の創り手」へと導いていきます。

未来を生きる子どもたちが、自らの個性と可能性を存分に発揮できる教育を、皆様とともに力強く推進してまいります。「日本一の教育都市」で「日本一幸せな子ども」を育てるという理念のもと、誰一人取り残さない、包摂的で質の高い学びの実現に向けて、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



[令和8年度の「教育行政方針」はこちらから](#)

教育長フォトレポート

教育長が参加した行事の様様や活動の様子などをお伝えします。



※詳しくは教育長フォトレポートで検索⇒[こちらから](#)

令和7年度教育委員会表彰

令和8年1月5日(月)、ときわ会館5階大ホールにおいて、教育委員会仕事始めの式に引き続き、表彰式を行いました。

教育功労賞

教育行政・学校教育の振興発展に尽力し、その功績が特に顕著な5名の方を表彰しました。表彰者は以下のとおりです。

栗原 章浩	教育委員会事務局	副教育長
野津 吉宏	学校教育部	部長
永山 誉	高砂小学校	校長
山浦 麻紀	岸中学校	校長
玉崎 芳行	常盤中学校	校長



優秀教職員表彰

資質に優れ、模範的であり、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げている7名の教職員と1校の教職員組織を表彰しました。表彰者は以下のとおりです。

鈴木 優	大宮東小学校	養護教諭
天野 翔太	大砂土東小学校	教諭
阿保 健秀	南浦和中学校	教諭
山岸 啓介	大宮西中学校	教諭
小井田 誠	柏陽中学校	教諭
谷口 拓矢	美園南中学校	教諭
加藤 俊介	大宮国際中等教育学校	教諭
片柳中学校	(教職員組織)	



教育委員会職員表彰

日々の職務に真摯に取り組み、他の模範となる職員として、各部等から推薦された方の中から6名の職員を表彰しました。表彰者は以下のとおりです。



三上 裕世	教育財務課	主査
坂上 進	教職員給与課	主任
三村 悟	生涯学習振興課	主査[再]
藤井 康市	大古里公民館	主事
蛭澤 亮介	東浦和図書館	主事
森田 真由美	徳力小学校	業務主査